

交通新聞社新書
051

15歳の機関助手

川端新二

太平洋戦争のさなか “カマ焚き”に汗した 少年乗務員の奮闘記



昭和18年、機関士に憧れる
14歳の少年が国鉄に入った。
下積みや訓練を重ねた後、
機関助手になれたものの
時は、太平洋戦争のさなか。
空襲の中での命がけの業務、
仲間の殉職、機関士との絆、
終戦の日もいつも通りに機関車を走らせ……。

機関車乗務員の青春の記録。